慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	伊藤美奈子略歴・主要研究業績
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	2013
Jtitle	慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要 : 社会学心理学教育学 : 人間と社会の探究 (Studies in sociology, psychology and education : inquiries into humans and societies). No.75 (2013.) ,p.217- 235
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	2012年度定年退職者略歴・著作目録一覧
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000075-0217

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

of Medical English Education 11, 20–22.
「文法ができるまで」，単著，2011年12月，*Brain Medical* 12月号，367–374.

伊藤　美奈子　　略歴・主要研究業績

［学歴］
1980年4月　京都大学文学部入学
1984年3月　京都大学文学部国文学科卒業
1988年4月　大阪教育大学大学院教育学研究科（学校教育学専攻）修士課程入学
（1988年4月～1990年3月　東大谷高等学校教諭在職中）
1990年3月　同　上　修了
1990年4月　京都大学大学院教育学研究科（臨床教育学専攻）修士課程入学
1992年3月　同　上　修了
1992年4月　京都大学大学院教育学研究科（臨床教育学専攻）博士課程入学
1995年3月　同　上　課程学修認定（所定の単位を修得）
1996年5月　同　上　課程博士（教育学）取得

［職歴］
1984年4月　私立東大谷高等学校 教諭（国語科）（1990年3月まで）
1993年4月　日本学術振興会特別研究員 DC–2
1995年4月　南山大学文学部教育学科専任講師
1997年4月　お茶の水女子大学生活科学部助教授
1998年4月　お茶の水女子大学大学院人間文化研究科助教授
2003年4月　慶應義塾大学教職課程センター助教授
2006年4月　同　上　教授（現在に至る）

［賞罰］
平成11年度日本カウンセリング学会特別賞受賞

社会学研究科委員
2009年4月～2011年3月　大学院入試委員会委員（補佐）
2011年9月～2013年3月　大学院奨学委員会委員

［業績］
（単　著）
1　1997・3　「個人志向性・社会志向性から見た人格形成に関する研究」 北大路書房.
2　2000・18　「思春期の心さがしと学びの現場」 北樹出版.
3　2002・6　「スクールカウンセラーの仕事」 岩波書店.

4　2009・8　「不登校 その心もようと支援の実際」 金子書房.

（編　著）

1　2000・10　伊藤美奈子・本多利子著『もうひとつの学校を求めて―フリースクール・チャムで出会った子どもたち―』 ナカニシヤ出版
2　2001・6　柏木惠子・伊藤美奈子編『女性のためのライフデザインの心理①―自分らしい生き方を考える』大日本図書
3　2001・6　柏木惠子・伊藤美奈子編『女性のためのライフデザインの心理②―自分らしい家庭を設計する』大日本図書
4　2003・12　伊藤美奈子・平野直己編『学校臨床心理学・入門』有斐閣.
5　2004・3　伊藤美奈子・明里康弘編『不登校とその親へのカウンセリング』ぎょうせい
6　2004・9　伊藤美奈子・宮下一博編『傷つけ傷つく青少年の心―関係性の病理―』北大路書房
7　2005・1　伊藤美奈子編『ストレスに負けないこころを育てる学校の取り組み（教職研修2月号増刊）』教育開発研究所
8　2005・8　戸田まり・佐藤達哉・伊藤美奈子 『グラフィック性格心理学』サイエンス社
9　2006・8　伊藤美奈子編 『思春期・青年期臨床心理学』 朝倉書店
10　2010・10　伊藤美奈子・相馬誠一編 『学校臨床心理学』 サイエンス社
11　2011・2　平田裕美・伊藤美奈子編 『心理学入門』 建帛社
12　2011・4　春日井敏之・伊藤美奈子編 『よくわかる教育相談』 ミネルヴァ書房

（共著・分担執筆）

1　1995・2　「現代青年の価値観と生活意識の変貌」 秋葉英則編『現代青年の行動様式と価値観』Pp. 1–84. フォーラム・A.
2　1995・4　「占い・新宗教が持つ現代的意味　青年心理学・臨床心理学」 菊池聡・谷口高士・宮元博章編『不思議現象　なぜ信じるのか』 Pp. 145–168. 北大路書房.
3　1998・4　「学校における子どもの問題と教師の関わり」 無藤隆・市川伸一編 『学校教育の心理学』学文社. Pp. 175–190
4　1998・3　「自己の成長と人間関係」他4章　無藤隆編 『児童心理学』 放送大学. Pp. 87–96, 116–152.
5　1998・4　「自分を知る」 落合良行編 『中学3年生の心理』 大日本出版. Pp. 68–95.
6　1998・3　「社会に対する意識」 佐藤有耕編『高校生の心理 ①広がる世界』 大日本出版. Pp. 151–175.
7　1999・8　「個と関係性から見た女性の生涯発達」 岡本祐子編 『女性の生涯発達とアイデンティティ』北大路書房. Pp. 87–112.
8　2000・7　「最近の教育問題と新しい教育評価」 森敏昭・秋田喜代美編 『教育評価重要用語300の基礎知識』 明治図書.
9　2001・8　「学校現場からの離脱，回帰，そして新たな展開」 岩波書店編集部編『なぜ私はこの仕事を選んだのか』岩波書店　Pp. 29–38.

10　2001・12　「学童期・児童期―不登校の心理臨床」 下山晴彦・丹野義彦編『講座: 臨床心理学』東京大学出版会　Pp. 113–134.

11　2002・3　「教育相談の実際」 無藤隆・澤本和子・寺崎千秋編『子どもを見る目を鍛える』ぎょうせい　Pp. 23–42.

12　2002・7　「児童虐待」 村山正治・鵜養美昭編『実践！スクールカウンセリング』金剛出版 Pp. 134–146.

13　2002・8　「キレと規範意識・キレと言葉」 宮下一博編『キレる青少年の心』 Pp. 73, 82.北大路書房

14　2002・9　「臨床現場に見る自分づくりへの支援」 森敏昭編『認知心理学者新しい学びを語る』北大路書房　Pp. 134–147.

15　2002・10　「教師のメンタルヘルス」 講座『教師教育学Ⅲ　教師として生きる』 学文社 Pp. 172–173.

16　2003・3　「さまざまなひきこもりの状態像―不登校―」「さまざまなひきこもりへの対応―不登校―」岡本祐子・宮下一博編 『ひきこもる青少年の心』 北大路書房　Pp. 57–70, 100–109.

17　2003・4　「不登校」「スクールカウンセリング」「社会的専門性―教育領域―」下山晴彦編『よくわかる臨床心理学』 Pp. 106–109, 186–189, 250–253.

18　2003・6　「ぶつからない親子関係（鈴木光司氏との対談）」 NHK世論調査部編『中高生の意識と生活』 Pp. 114–130.　NHK出版.

19　2004・1　「法律相談場面での「トラウマ」の扱い方」 Pp. 97–98　菅原郁夫・岡田悦典編『法律相談のための面接技法』商事法務.

20　2004・4　「学校カウンセリングの実際」馬場謙一編『スタートライン臨床心理学入門』 弘文堂, Pp. 172–181.

21　2004・7　「学校カウンセラーをどう生かすか」佐藤晴雄編『新編 教頭読本』教育開発研究所. Pp. 97–99.

22　2004・9　「不登校はどうして起こる？」「思春期への支援」 無藤隆・岡本祐子・大坪治彦編『よくわかる発達心理学』ミネルヴァ書房　Pp. 164–165, 172–173.

23　2005・2　「スクールカウンセラーという立場から学校教育に関わる」 鹿毛雅治編『新しい教育心理学のかたち』誠信書房. Pp. 88–108.

24　2005・3　「スクールカウンセラーによる学校支援の実際」「スクールカウンセラーの業務の特殊性」滝口俊子編『学校臨床心理学』 放送大学出版会. Pp. 115–124, 125–134.

25　2005・4　「不登校にまつわる理論と実際の指導」 宮下一博・河野荘子編『生きる力を育む生徒指導』北樹出版, Pp. 72–85.

26　2005・4　「リーガル・カウンセリング」 菅原郁夫・佐藤達哉・黒沢香『法と心理学のフロンティア』 Pp. 159–178.

27　2005・7　「教育相談の実施に関する工夫をどう進めるか」 尾木和英編『自己指導力・社会性を育てる生徒指導のPDCA』 教育開発研究所　Pp. 151–154.

28　2005・8　「不登校児童・生徒への支援―教育支援センター（適応指導教室）を中心に―」下司

昌一編『カウンセリングの展望』 ブレーン出版　Pp. 315–328.

29　2006・2　「臨床的観点から発達を考える―臨床実践の場から見た思春期」 内田伸子編『発達心理学キーワード』 有斐閣　Pp. 193–216.

30　2006・1　「子どもの心身の発達的な特性を理解する」 有村久春編『教師の資質・能力向上のためのPDCA』 教育開発研究所　Pp.12–15.

31　2006・4　「子どもを育む」 佐藤学・秋田喜代美編『新しい時代の教職入門』有斐閣. Pp. 81–102.

32　2006・10　「面接法」「質問紙法」「ひきこもり」「対人恐怖」「非行」 二宮克美・子安増生編『キーワードコレクション　パーソナリティ心理学』 新曜社　Pp. 44–51, 166–173, 178–181.

33　2006・7　「＜誤解＞から考える不登校対応」 小澤美代子・土田雄一編 『こんな誤解していませんか？学校と家庭を結ぶ不登校対応』 ぎょうせい　Pp. 93–98, 113–119.

34　2007・3　「学校臨床現場における個と集団―スクールカウンセラーと教師との関係性に焦点づけて」岡田康伸・河合俊雄・桑原知子編 『心理臨床における個と集団』 創元社 Pp. 361–371.

35　2007・8　「データから見る不登校の子どもたちの心理」「不登校に関わる人々の声―教育支援センター指導員対象の調査より―」 相馬誠一編 『不登校―学校に背を向ける子どもたち』ゆまに書房Pp. 25–42, 69–84.

36　2007・12　「子どもの成長発達に応じた生徒指導の必要性」 有村久春編『新編生徒指導読本』教育開発研究所　Pp. 64–67.

37　2008・10　「Q9　適応と成長及び健康安全の内容について」 渡部邦雄編『中学校教育課程講座特別活動』 ぎょうせい　Pp. 35–37.

38　2007・12　「適応と成長及び健康安全」 天笠茂編『中学校新学習指導要領の展開・特別活動編』明治図書　Pp. 62–64, Pp. 66–67.

39　2009・1　「学校カウンセリングと自己の成長」 塩崎万里・岡田努『シリーズ自己心理学―健康心理学・臨床心理学へのアプローチ』 Pp. 120–134.　金子書房

40　2010・4　「児童生徒の理解」「児童生徒理解の方法」「児童生徒アセスメントの課題」「不登校」小泉令三編『よくわかる生徒指導・進路指導』ミネルヴァ書房　Pp. 64–75, 118–121.

41　2010・4　「教師のキャリア危機とその援助」 岡本祐子編『成人発達臨床心理学ハンドブック』ナカニシヤ出版　Pp. 147–156.

42　2010・4　「個人差と不適応への対応」 三宮真智子編『教育心理学』 学文社　Pp. 100–115.

43　2010・12　「第三の役割：教師カウンセラー」 上地安昭編『教師カウンセラー・実践ハンドブック』金子書房　Pp. 28.

44　2011・9　「特別支援教育」『心理臨床学辞典』 丸善出版　Pp. 178–179.

45　2012・4　「アイデンティティ」 高橋惠子・湯川良三・安藤寿康・秋山弘子編『発達科学入門3 青年期～後期高齢期』 東京大学出版会　Pp. 35–50.

46　2012・5　「不登校・学級集団の逸脱への支援」 無藤隆・長崎勤編 『発達科学ハンドブック6 発達と支援』 新曜社　Pp. 121–129.

（指導・監修）

1　2008・10　「教職員のためのメンタルヘルス・ハンドブック」 秀光社

（翻　訳）

1　2009・6　「身体的自己概念」 ブルース.A.ブラッケン編　梶田叡一・浅田匡監訳 『自己概念研究ハンドブック』 金子書房．Pp. 435–460.

2　2013（予定）「青年期発達百科事典（Encyclopedia of Adolescence）」第3巻の一部の編集および翻訳安増生・二宮克美編集主幹　丸善出版.

（学術論文）

1　1991・8　「Erikson理論から見た現代青年に対する新しい視座―同一性と親密性との関連について―」八代学院大学紀要，41, 51–63.

2　1991・12　「青年期自我形成過程における自己受容研究の意義と視点」 青年心理学研究，3, 20–28.

3　1991・12　「自己受容尺度作成と青年期自己受容の発達的変化―2次元から見た自己受容発達のプロセス」発達心理学研究，2, 70–77.

4　1991・12　「青年期の超自我と自我理想の発達的変化に関する一考察―自己受容との関連を巡って―」大阪千代田短期大学紀要，20, 17–30.

5　1992・2　「自己形成過程における自己と他者に関する一論考」 八代学院大学紀要，42, 48–58.

6　1992・6　「自己受容を規定する理想–現実の差異と自意識についての研究」教育心理学研究，40, 165–170.

7　1992・9　「自己受容と性格特性の関連についての一考察」 心理学研究，63, 205–208.

8　1992・12　「“ふつうの女の子”に脱皮していく不登校女子高校生との面接過程」京都大学教育学部　心理教育相談室紀要，19, 219–226.

9　1992・12　「個人志向性と社会志向性の統合に関する探索的考察」 神戸国際大学紀要，43, 50–64.

10　1992・12　「対人葛藤場面における個人志向性・社会志向性と行動特性との関連」大阪千代田短期大学紀要，21, 65–75.

11　1993・6　「個人志向性・社会志向性尺度の作成及び信頼性・妥当性の検討」 心理学研究，64, 115–122.

12　1993・7　「個人志向性・社会志向性から見た非行少年の自我構造」 心理臨床学研究，11, 36–43.

13　1993・8　「発達理論の諸問題と新たなモデルの提唱―個人化・社会化を統合的にとらえうる発達理論の探索―」神戸国際大学紀要，44, 61–77.

14　1993・9　「個人志向性・社会志向性に関する発達的研究」 教育心理学研究，41, 293–301.

15　1993・12　「学校カウンセリングに対する教師と臨床家の見解についてのフィールドワーク的研究」神戸国際大学紀要，45, 27–39.

16　1993・12　「個人志向性・社会志向性と性役割との関連」 大阪千代田短期大学紀要，22, 85–96.

17　1994・3　「学校カウンセリングに対する一考察―学校カウンセリングに対する教師の意見と学校カウンセラーからの聞き取り」 私学カウンセリング研究，5, 70–83.

18　1994・3　「心理学的観点から見た自己と他者についての一断章」 山中康裕・岡田康伸編 『身体像とこころの癒し』岩崎学術出版社，105–111.

19　1994・3　「個人志向性・社会志向性–PN–尺度の臨床診断としての有効性の検討」京都大学教育学部紀要，40, 269–276.

20　1994・3　「現代青年の価値観と生活意識の変貌」 平成4,5年度科学研究費補助金（総合研究Ａ）研究成果報告書『現代青年の行動様式と価値観』（代表・秋葉英則），9–120. ＜共著他9名＞

21　1994・3　「教育臨床の現状と教師に求められるカウンセラー的資質」 姫路獨協大学教職課程研究室編『教職課程研究（第4集）』 77–92. ＜共著　他1名＞

22　1994・4　「性格特性の一面性と個人志向性・社会志向性との関連について」 心理学研究，65, 18–24.

23　1994・6　「欲求と葛藤解決から見た自他関係についての一考察」 心理臨床学研究，12, 73–79.

24　1994・6　「現代青年におけるライフスタイルについての探索的研究」青年心理学研究，6，29–39. ＜共著＞

25　1994・8　「個人志向性・社会志向性に関する縦断的研究」 神戸国際大学紀要，46, 93–104.

26　1994・9　「学校カウンセリングに関する探索的研究―教師とカウンセラーの役割兼務と連携をめぐって」教育心理学研究，42, 298–305.

27　1994・9　「勤労青年の価値観と生活意識に関する学歴別比較」 大阪教育大学紀要　第Ⅳ部門教育科学，43, 37–47. ＜共著　他9名＞

28　1994・12　「理想像の分化と内面化に見る非行少年の心理的特徴」 教育心理学研究，42, 363–372.

29　1994・12　「青年期個人化・社会化過程と親子関係の認知との関連について」 大阪千代田短期大学紀要，23, 109–120.

30　1994・12　「葛藤状況における行動パターンと2志向性との関連について」神戸国際大学紀要，47, 36–48.

31　1995・2　「オールポート・ヴァーノン価値テストと生活意識の関連の分析―進路指導との関連から―」大阪教育大学紀要（第Ⅴ部門　教科教育），43, 187–201. ＜共著　他9名＞

32　1995・2　「青年の価値観と親の養育態度および個人の行動特性との関係」 大阪教育大学紀要（第Ⅳ部門教育科学）43, 145–160. ＜共著　他9名＞

33　1995・3　「個人志向性と社会志向性と意欲」 東 洋編　現代のエスプリ333　意欲―やる気と生きがい　Pp. 176–187. 至文堂.

34　1995・3　「教師が「辞めたい」と思うとき―小学校教師と高校教師の比較」 私学カウンセリング研究，6, 62–73.

35　1995・3　「アノレクシア・ネルヴォーザへの心理的援助体制―「家族の会」の機能に関する一検討―」京都大学教育学部心理教育相談室紀要，21, 264–268.

36　1995・4　「孤独感類型の発達から見た個人志向性・社会志向性の統合についての一考察」 心理

学研究，66，10–15.

37　1995・6　「個人志向性・社会志向性PN尺度の作成とその検討」 心理臨床学研究，13, 39–47.

38　1995・8　「平成4年度神戸国際大学学生における大学不適応に関する一考察」 神戸国際大学紀要，48, 34–51. ＜共著　他1名＞

39　1995・12　「阪神大震災に対する電話相談活動に関わる中で」 発達心理学研究，6, 166–167.

40　1995・12　「不本意就学類型化の試みとその特徴についての検討」 青年心理学研究，7, 30–41.

41　1995・12　「教師の生徒観・教師観に関する一考察―理想の教師像による6タイプ間比較」神戸国際大学紀要，49, 26–34.

42　1995・12　「NTN労働組合中高年齢者意識調査報告書第3・4章 中高年期の発達」国際経済労働研究所編，Pp.34–70.

43　1996・1　「成人期の発達に関する一試論―中高年における意識変化をとらえる項目収集とその検討―」南山大学紀要 アカデミア（人文社会科学編），63号，343–372.

44　1996・2　「養護教諭は医者？ 教師？ それともカウンセラー？」 健康教室2月号，12–22. 東山書房

45　1996・3　「スクールカウンセラーに対して望むこと―高校教師の場合―」私学カウンセリング研究第7号，50–55.

46　1996・3　「学校における教育相談の充実に関する研究―教育相談係を中心とした教育相談体制の機能化」名古屋市教育センター　研究報告7―02

47　1996・7　「参加関与型組織としての労働組合の再生―国際経済労働研究所第30回共同意識調査総合報告書―第8章　働きがいに関わる諸問題　第1節「生きがい」と「働きがい」第2節 生涯発達過程における自律性と有能性の意味」 Pp. 274–282. 国際経済労働研究所.

48　1996・8　「スクールカウンセラー制度に対する学校現場の認識と要望について」カウンセリング研究，29, 120–129.

49　1996・9　「成人期の発達に関する一試論Ⅱ―中高年意識変化の段階評定の試みとその検討―」南山大学紀要アカデミア（人文社会科学編），64号，197–214.

50　1997・2　「ライフスタイル別に見た中年期女性に関する一考察―中年期女性にとっての結婚・子ども・仕事の意味―」＜共著他1名＞　南山大学紀要アカデミア（人文社会科学編），65号，1–24.

51　1997・9　「小・中学校における教育相談係の意識と研修に関する一考察」教育心理学研究，45, 295–302.

52　1997・12　「相談活動を期待される養護教諭の役割認知とその悩みに関する一研究」 カウンセリング研究，30, 266–273.

53　1997・12　「個と関係性の観点から見た中年期女性の発達に関する一試論」 お茶の水女子大学人文科学紀要，51, 301–313.

54　1998・3　「今，先生に求められていること」 私学カウンセリング研究，9, 44–50.

55　1998・4　「人間の発達をとらえる際の2志向性概念の提唱」 心理学評論，41, 15–29.

56　1998・4　「注意・集中を妨げる要因」 児童心理，694, 23–30. 金子書房.

57　1998・5　「個人志向性・社会志向性から見た非行少年の性格特徴」 現代のエスプリ 372『性格のための心理学』 56–64. 至文堂.

58　1998・6　「学校現場へのスクールカウンセラー導入についての意識調査―中学校教師とカウンセラーを対象に」 教育心理学研究, 46, 121–130.

59　1998・7　「スクールカウンセラー・学校からの報告」 発達, 75, 49–54. ミネルヴァ書房.

60　1998・9　「葛藤なき不登校の増加と時代的背景」 児童心理, 702, 104–125. 金子書房.

61　1998・12　「メンタルフレンドとの出会い, 不登校生徒の成長」 発達, 77, 42–48. ミネルヴァ書房.

62　1999・2　「スクールカウンセラーの実践報告―不登校に対する新しい試みを通して」 文部時報 2月号, 28–30.

63　1999・3　「児童相談所を対象としたメンタルフレンド活動に関する実態調査」 健康文化（明治生命厚生事業団研究助成論文集）, 5, 20–27.

64　1999・4　「現代青年における同一性と親密性との関連について」 心理学評論, 41, 15–29.

65　1999・10　「いま求められるたくましさとは」 児童心理, 721, 1–9, 金子書房.

66　1999・12　「スクールカウンセラーによる学校臨床実践評価ならびに学校要因との関連」 教育心理学研究, 47, 521–529.

67　2000・1　「スクールカウンセラー活動の評価」 現代のエスプリ別冊『臨床心理士によるスクールカウンセラーの実際と今後の展望』 374–384. 至文堂.

68　2000・2　「スクールカウンセラーに対する派遣校養護教諭の意識と評価」カウンセリング研究, 33, 30–39.

69　2000・3　「教師のバーンアウトを規定する諸要因」 教育心理学研究, 48, 12–20.

70　2000・3　「教師のバーンアウトと, それを取り巻く学校要因・個人要因との関連」 明治生命厚生事業団第7回研究助成論文集「健康文化」 Pp. 8–14.

71　2000・3　「心理臨床経験の違いによるスクールカウンセラー事業に対する評価の比較」お茶の水女子大学人文科学紀要, 53, 403–416.

72　2000・3　「中年期女性の個人志向性・社会志向性発達に関与する要因―年齢, ライフスタイル, 理想と現実のずれに注目して」 お茶の水女子大学ジェンダー研究, 3, 23–39.

73　2000・4　「スクールカウンセラー実践活動に対する派遣校教師の評価」 心理臨床学研究, 18, 93–99.

74　2000・4　「学校を支援する相談活動との比較を通して」 発達, 82, 25–26. ミネルヴァ書房.

75　2000・4　「スクールカウンセリング―あいまいさを生かしたつなぎ役」 アエラムック 『新心理学がわかる―現場から―』 Pp. 118–121. 朝日新聞社

76　2000・5　「ユーザーから見た学校臨床心理士」 臨床心理士報, 11, 21–42.

77　2000・6　「自伝的記憶のパーソナリティ特性による分析」 心理学研究, 71, 88–96. ＜共著他1名＞

78　2000・12　「燃え尽きる教師たち–ストレスの坩堝の中で―」 教員養成セミナー, 23(7), 18–20.

79　2000・12　「子どもの問題行動の発達的特徴とその背景にある諸要因―親の養育態度に注目して―」 総務庁青少年対策本部『低年齢少年の価値観等に関する調査』 217–231.

80　2001・1　「自己表現できる人間関係・できない人間関係」 児童心理，744, 31–35.

81　2001・3　「メンタルフレンド事業に関する実態調査―メンタルフレンド活動の実際と，その成長と悩み」お茶の水女子大学人文科学紀要，54, 277–290.

82　2001・3　「地域と学校とを結ぶメンタル・フレンド制度の開発および実用化のための実践的研究」平成10～12年度日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究B課題番号10551006）研究成果報告書

83　2001・3　「不登校児に＜居場所＞を提供する適応指導教室の現状と今後の展開に関する実践的研究」平成11～12年度日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C課題番号11610110）研究成果報告書

84　2001・7　「学校現場における不登校生徒の母親面接過程―スクールカウンセラーとメンタルフレンドとの連携―」 小児科臨床，54, 129–134.

85　2002・1　「法律相談の事例研究」 現代のエスプリ『21世紀の法律相談』 至文堂　102–110. ＜共著他1名＞

86　2002・2　「教師のバーンアウト」『教育と医学』（2002年3月号） 39–46.

87　2002・3　「不登校気分の背景にある休み時間イメージと学校適応，親友とグループの有無―不登校予備軍に注目して」お茶の水女子大学人文科学紀要，55. 275–286.

88　2002・3　「おもに教育現場に関わる臨床心理学的研究の動向と課題」 教育心理学年報，41, 114–123.

89　2002・10　「メンタルフレンド活動による不登校児童生徒の変化―不登校のタイプとメンタルフレンドの属性による比較―」 カウンセリング研究，35, 256–264.

90　2002・10　「心理臨床の現場から見た学校現場の荒れと教師の疲れ」日本教師教育学会年報，11, 159–160.

91　2002・12　“Which Factors Relate to Burnout of Teachers?―Teachers' Experience, Social Support, and their Ideal on the Education” R. Nata (Editor) “PROGRESS IN EDUCATION, VOLUME3” NY: Nova Science Publisher, Inc. (with Yuichi Toda)

92　2003・2　「思春期の行動をどうとらえるか」 児童心理（金子書房），782, 12–19.

93　2003・2　「不登校，保健室登校」 健康教室（東山書房），784, 86–89.

94　2003・3　「東京都におけるスクールパートナー事業に対する評価と支援に関する実践的研究」平成12年度～平成14年度文部科学省地域連携推進研究費　研究成果報告書

95　2003・3　「学校現場における“荒れ”と教師の“疲れ”についての実践的研究」 平成13年度～平成14年度日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C） 研究成果報告書

96　2003・3　「養護教諭を対象としたカウンセリング研修と，保健室登校をめぐる実践的研究」 平成14年度社会人ブラッシュアップ教育推進プロジェクト研究成果報告書

97　2003・4　「能代論文『高校生女子との面接過程』に寄せて」 岐阜大学心理教育相談研究，2, 15–18.

98　2003・7　「苦悩する学校教師の伴走者として」 生徒指導，593, 84–91.

99　2003・9　「保健室登校の実態把握ならびに養護教諭の悩みと意識―スクールカウンセラーとの協働に注目して―」教育心理学研究，51, 251–260.

100　2003・12　「水間論文“理想自己を志向することの意味”から思うこと」青年心理学研究，15, 70–73.
101　2004・3　「不登校への対応をめぐって」 中野区教育相談研究集録（平成15年度），P. 5.
102　2004・4　「子どもとうまくかかわれない先生に」 児童心理（金子書房），803, 1–9.
103　2004・9　「不登校再考」 書斎の窓（有斐閣），537, 48–51.
104　2004・11　「スクールカウンセラーから見た不登校―多様化する実態，多様化する対応」月刊生徒指導，11月号，20–24. 105　2005・3 「産婦人科医療における心理的サポートの必要」 山中康弘・河合俊雄編『心理医療と医学の接点』 創元社．Pp.254–255.
106　2005・3　「不登校保護者が抱える不安と学校への思い―子どもの状態，ならびに学校教師による家庭訪問に注目して」 慶應義塾大学教職課程センター（13・14合併号） 5–20.
107　2005・3　「「適応の場」に関する総合調査から見る現状と課題」 不登校児童生徒の「適応の場」に関する総合的研究研究会（研究代表　相馬誠一）編『不登校児童生徒の「適応の場」に関する総合的研究』 Pp. 44–96.
108　2005・3　「訪問型支援の現状と課題」 横山利弘編『不登校児童生徒の訪問型支援のあり方に関する調査研究』 Pp. 29–55.
109　2005・4　「多様化する不登校と学校の取り組み」 青少年問題，52, 22–27.
110　2005・5　「改めて考える不登校の基本理解」 児童心理　834，14–21．金子書房.
111　2005・9　「スクールカウンセリング活動の現状と課題」 月刊生徒指導　10–15.
112　2006・2　「不登校児童・生徒の学校外教育施設での学習」 教職研修　402，74–75.
113　2006・3　「不登校・ひきこもりへの対応Ⅰ」 月刊生徒指導　30–39.
114　2006・3　「教育支援センター（適応指導教室）に通う子どもたちの意識と成長」 慶應義塾大学教職課程センター年報，15, 5–26.
115　2006・4　「教師のバーンアウト―燃え尽きる教師たち」『発達』 106, 11–17．ミネルヴァ書房
116　2006・4　「「不登校」との出会い――一人ひとりの子どもに寄り添う」 児童心理，839, 120–126.
117　2006・5　「不登校の子どもの気持ち」 児童心理，841, 121–127．金子書房
118　2006・6　「子供を支える親の思い」 児童心理，842, 121–127．金子書房
119　2006・7　「失敗を怖がる子ども」 別冊PHP，7月号，32–35.
120　2006・7　「教師が家庭訪問をするとき気をつけたいこと」 児童心理，843, 121–127．金子書房
121　2006・8　「専門機関と連携する―適応指導教室における支援」 児童心理，844, 121–128．金子書房
122　2006・9　「学校内での取り組み」 児童心理，845, 121–128．金子書房
123　2006・10　「不登校の子と社会との関わり―ひきこもりの背景にある意味を考える」 児童心理，846, 121–128．金子書房
124　2006・11　「不登校の現状と今後の対応課題」教職研修，115–119．教育開発研究所
125　2006・11　「不登校の子どもたちの進路」 児童心理，850, 119–126．金子書房
126　2006・12　「再登校・別室登校のときの関わり」 児童心理，851, 121–127．金子書房
127　2007・1　「不登校の背景としての思春期」 児童心理，853, 143–149．金子書房
128　2007・2　「訪問型支援の実際」 児童心理，854, 128–134．金子書房

129　2007・3　「進級・進学の節目に必要なこと」 児童心理，856, 128–134. 金子書房
130　2007・3　「教師のバーンアウト傾向を規定する諸要因に関する探索的研究（Ⅱ）―子どもの問題，サポート源，生活時間に注目して―」 慶應義塾大学教職課程センター年報，16, Pp. 5–19.
131　2007・3　「学校・家庭・社会からみた不登校問題と，その対応に関する総合・実践的研究」（平成15～18年度科学研究費補助金（基盤研究B）研究成果報告書（代表：伊藤美奈子）
132　2007・12　「不登校は本当に減ったのか（日本教育心理学会シンポジウム記録）」 月刊生徒指導（2007年12月号），10–21. 学事出版
133　2008・2　「子どもの気持ち，親の気持ち―保護者面接をめぐって」 中野区教育相談研究紀要（平成19年度） P. 5.
134　2008・3　「教師のバーンアウト―燃え尽きる教師たち」 広島大学心理臨床教育研究センター紀要，6, 18–22.
135　2008・2　「「保健室登校生徒との相談活動過程」を読んで」 天理大学カウンセリングルーム紀要，4, 129–132.
136　2008・4　「学校で役に立つスクールカウンセラーとは」 児童心理（2008年4月号），2–11. 金子書房
137　2008・4　「養護教諭とスクールカウンセラーとの協働による不登校対応」 教育と医学（2008年4月号），42–47. 慶應義塾大学出版会
138　2008・4　「新人教師へ期待すること」 体育科教育（2008年4月号） 10–13. 大修観書店.
139　2008・10　「生徒指導におけるスクールカウンセラーの役割」 教職課程 Vol. 34 38–41. 協同出版.
140　2008・10　「スクールカウンセリングの明日（第4回専門職大学院教育推進プログラム採択記念シンポジウム記録）」 月刊生徒指導（2008年10月号），6–15. 学事出版
141　2008・10　「スクールカウンセラーの専門性と課題」 月刊生徒指導（2008年10月号），22–25. 学事出版
142　2010・3　「適応指導部会まとめ―板橋区の不登校対応にかかわって」 中野区教育委員会指導室報告書.
143　2010・3　「自尊感情や自己肯定感に関する研究」報告書 東京都受託研究（代表：伊藤美奈子）報告書
144　2010・3　「不登校保護者が抱える不安と子どもの状態―不登校の子どもを抱える保護者に対する全国調査」 慶應義塾大学教職課程センター年報，19, Pp. 25–40.
145　2010・3　「教師による家庭訪問に対する不登校保護者・子どもの思いとニーズ―不登校の子どもを抱える保護者に対する全国調査2―」 慶應義塾大学教職課程センター年報，19, Pp. 41–56.
146　2010・3　「学校現場が求める自尊感情を測る尺度作成の試み」（2人連名・筆頭） 慶應義塾大学教職課程センター年報，19, Pp. 71–90.
147　2010・3　「不登校」 文部科学省「生徒指導提要」 Pp. 187–189.
148　2010・11　「教師・カウンセラー・保護者の協働による不登校への対応」 教育と医学，58(11),

39–45.

149　2011・1　「不登校の実態×生徒指導提要」 教職課程，37(1), 32–33.

150　2011・2　「教師の燃え尽きとうつについて」 子どもの心の学校臨床（遠見書房），4, 43–50.

151　2011・3　「不登校と，その背景にある家庭」 中野区教育委員会指導室報告書．平成22年度 P. 4.

152　2011・3　「児童の自尊感情を育む学校経営」 教職研修，2011年3月号，28–31.

153　2011・3　「不登校・スクールカウンセリングと面接技法」 臨床心理学，62, 205–209.

154　2011・3　「自尊感情や自己肯定感に関する研究　報告書」（東京都委託研究報告書）

155　2011・4　「関係性の病理といじめ」 現代のエスプリ，525, 42–51.

156　2011・6　「不登校は今どうなっているか」 児童心理，933, 1–10.

157　2011・9　「教員との関係をどう創るか」 村山正治・森岡正芳編　臨床心理学，増刊第3号，『スクールカウンセリング―経験知・実践知とローカリティ』，金剛出版，77–80.

158　2012・3　「自尊感情や自己肯定感に関する研究　報告書」（東京都委託研究報告書平成23年度版）

159　2012・10　「自尊感情によるタイプ分類の試み―3因子の組み合わせによる8タイプの分類」 慶應義塾大学教職課程センター年報，20　印刷中.

160　2012・10　「中学生・高校生の自尊感情に関する日中比較」 慶應義塾大学教職課程センター年報，20　印刷中.（ザイ宇華氏との連名）

161　2012・10　「不登校経験者の「過去」「現在」「未来」―チャレンジ高校に在籍する生徒を対象とした調査より―」 慶應義塾大学教職課程センター年報　印刷中.

162　2012・12　「新たな不登校を生まない未然防止の取組」 教職課程，38(16)，26–29.

163　2013・1　「やる気の土台としての自尊感情」 児童心理，961, 24–28.

164　2013・3　「不登校経験者の不登校をめぐる意識とその予後との関連―通信制高校に通う生徒を対象とした調査から―」 慶應義塾大学大学院社会学研究紀要.

（書　評）

1　2003・11　森田洋二編著「不登校―その後」 金子書房『児童心理』No. 795, P. 132.

2　2004・2　小林正幸著「不登校児の理解と援助」 金剛出版『精神療法』30巻1号，P. 100.

（そ　の　他）

1　1991　江口篤寿監修 「性の指導総合事典」 第2章　心身の発達と性　3.中学・高校生の発達と性（青年心理学）Pp. 114–118，ぎょうせい.

2　1992　氏原寛ら共編 「心理臨床大事典」 ＜アンナ・フロイト＞の項　Pp. 1269–1270，培風館.

3　1992　氏原寛ら共編 「心理臨床家のための114冊」 ＜歯車＞の項　Pp. 264–265．創元社.

4　1998　児童心理 NO. 694「集中力を育てる」 Pp. 23–30.「注意・集中を妨げる要因」 金子書房.

5　1998　幼児の教育 「人間教育のエッセンス『シーラという子』」

6　1998　氏原寛他編 「カウンセリング辞典」 ＜カイ2乗検定＞の項　ミネルヴァ書房.
7　1998　大塚義孝・岡堂哲雄編 「現代のエスプリ別冊特集号　臨床心理学シリーズ」＜自我防衛論＞の項至文堂.
8　2007　ザ・チャレンジャー 2008 ～ 2009 「こんな道もあるとわかればあきらめないで頑張ることができる」Pp. 12–13.

（シンポジウム記録など）

1　2004・3　「私事化社会における生徒指導の今日的課題（学会研究企画）」 教育心理学年報，43, 29–33.
2　2004・1　「個と集団のみたてとてだて（シンポジウム記録）」 臨床心理士報，15(1)，10–43.

（学　会　発　表）

1　1989・11　「青年期自己受容における分化と統合」 日本心理学会第53回大会・筑波大学
2　1990・6　「青年期における自己受容類型化の試み」 日本心理学会第54回大会・東京都立大学
3　1990・10　「青年期自己受容における発達的変化」 日本教育心理学会第32回大会・大阪大学
4　1991・3　「青年期の自己受容と準拠枠に関する一考察」日本発達心理学会第2回大会・お茶の水女子大学
5　1991・9　「理想とのずれ・自意識と自己受容との関連について」 日本教育心理学会第33回大会・上越教育大学
6　1991・10　「自己受容と性格特性との関連についての一考察」日本心理学会第55回大会・東北大学
7　1992・3　「個人志向性・社会志向性尺度の作成とその検討」日本発達心理学会第3回大会・兵庫教育大学
8　1992・9　「個人志向性・社会志向性から見た人格形成の一側面」日本心理学会第56回大会・同志社大学
9　1992・10　「青年期から成人期の社会化・個人化に関する一考察」日本教育心理学会第34回大会・信州大学
10　1993・3　「個人志向性・社会志向性から見た非行少年の自我発達の特徴」日本発達心理学会第4回大会・横浜国立大学
11　1993・9　「個人志向性・社会志向性と性格特性の一面性との関連についての探索的考察」日本心理学会第57回大会・早稲田大学
12　1993・10　「孤独感類型の変化から見た個人志向性・社会志向性の発達過程」日本教育心理学会第35回大会・名古屋大学
13　1993・11　「生涯発達から見た青年期―自己と他者をめぐる意識についての発達的変化―」日本発達心理学会シンポジウム（話題提供）・白百合女子大学
14　1993・11　「現代青年のライフスタイルに関する探索的研究」（連名発表）　日本青年心理学会第1回大会・中央大学
15　1994・3　「教師とカウンセラーのイメージおよび学校カウンセリングの可能性についての検討」

日本発達心理学会第5回大会・東北大学

16　1994・9　「理想像の分化と内面化から見た非行少年の心理的特徴」 日本教育心理学会第36回大会・京都大学

17　1994・10　「志向性PN尺度の作成とその検討」 日本心理学会第58回大会・日本大学

18　1995・3　「志向性との関連から見た行動パターンの分類」 日本発達心理学会第6回大会・同志社大学

19　1995・3　「青年の価値観と親の養育態度との関係」（連名発表）日本発達心理学会第6回大会・同志社大学

20　1995・6　「発達の二方向―個人化・社会化―からとらえた人格形成についての一試論」 南山学会（人文・自然系列） 南山大学

21　1995・7　「教育とカウンセリングの統合をめぐって―教師vsカウンセラー，学校教育vs治療教育―」 東海相談学会

22　1995・9　「成人後期の意識と2志向性の変化に関する一試論」 日本教育心理学会第37回総会 茨城大学

23　1996・3　「非行少年の仲間意識に関する一研究」 日本発達心理学会第7回大会　埼玉大学

24　1996・5　「スクールカウンセラー制度に対する学校教師の認識と要望」日本カウンセリング学会第29回大会　名古屋大学

25　1996・5　「教師のカウンセリング研修に関する追跡調査Ⅰ」（連名発表） 日本カウンセリング学会第29回大会　名古屋大学

26　1996・9　「2志向性から見た中年期女性の発達に関する一研究」日本心理学会第60回大会・立教大学

27　1996・9　「ライフスタイル別に見た中年期女性に関する一考察」日本心理臨床学会第15回大会・上智大学

28　1996・10　「スクールカウンセラーに必要なのは専門性？学校経験？」日本教育心理学会第38回総会・筑波大学

29　1996・11　「自己表現・自己分析による青年教育の試み」 日本青年心理学会第5回大会・創価大学

30　1996・12　「不登校の子どもたちにとっての居場所―カウンセラーの立場から」発達心理学会企画委員会主催東京シンポジウム（話題提供）

31　1997・3　「文化・比較研究をめぐってⅢ―文化と自己―」 発達心理学会第8回大会・大阪大学ミニシンポジウム話題提供

32　1997・7　「新任教師とベテラン教師のアイデンティティと役割葛藤について」 日本カウンセリング学会第30回大会・立正大学.

33　1997・9　「自分史的叙述方法による自伝的記憶の分析」 日本心理学会第61回大会・関西学院大学.

34　1997・9　「自伝的記憶と信頼感および志向性の関連について」（連名発表） 日本心理学会第61回大会・関西学院大学.

35　1997・9　ラウンドテーブル・ディスカッション 「施設に収容されている非行・犯罪者に質問

紙調査を行う場合の問題点―特に社会的のぞましさについて」日本心理学会第61回大会・関西学院大学.

36 1997・9 自主シンポジウム 「教師カウンセラーの視点から考える学校カウンセリング」 日本心理臨床学会第16回大会・東北大学.

37 1997・9 「自伝的記憶と性格特性との関連―YGおよび自己受容，自己の短所に対する認識に基づいて」（連名発表） 日本教育心理学会第39回総会・広島大学.

38 1997・9 「不快エピソードに対する認識の変容と感情内容による比較」 日本教育心理学会第39回総会・広島大学.

39 1997・9 準備委員会企画シンポジウム「女性の生涯発達とアイデンティティ」 話題提供「個と関係性から見た女性の生涯発達」日本教育心理学会第39回総会・広島大学.

40 1998・3 「攻撃性の特徴から見た児童期抑うつに関する一考察―気質に関連づけて」（連名発表）日本発達心理学会第9回大会・日本女子大学.

41 1998・3 「スクールカウンセラー派遣による教師の意識の変化」日本発達心理学会第9回大会・日本女子大学.

42 1998・7 自主シンポジウム話題提供「教師の成長を考える」日本教育心理学会第40回総会・北海道教育大学

43 1998・7 口頭発表「教師アイデンティティの危機と相談活動の有無による教師の4タイプ」日本教育心理学会第40回総会・北海道教育大学

44 1998・9 自主シンポジウム指定討論「教師カウンセラーの視点から考える学校カウンセリング2」心理臨床学会第17回大会・名古屋大学

45 1998・10 ポスター発表「母親の養育にまつわるエピソードに対する感情認知」（連名発表） 日本心理学会第62回大会・東京学芸大学

46 1998・10 ポスター発表「母親の養育にまつわるエピソードと愛着スタイルの関係」 日本心理学会第62回大会・東京学芸大学

47 1998・11 シンポジウム話題提供「思春期の難しさ」 日本青年心理学会第7回大会・関西大学

48 1999・3 ポスター発表「スクールカウンセラー活動の評価と学校要因との関連」 日本発達心理学会第10回大会・大阪学院大学

49 1999・6 シンポジウム「臨床心理士と社会活動」 話題提供 東京都臨床心理士会大会・大正大学

50 1999・8 日本心理学会公開シンポジウム「現代を生きる生徒の心の世界」 話題提供

51 1999・8 自主シンポジウム指定討論「統合教育における心理職のコンサルテーション」 日本教育心理学会第41回総会・甲南女子大学

52 1999・8 口頭発表「スクールカウンセラーに対する養護教諭の意識と評価」 日本教育心理学会第41回総会・甲南女子大学

53 1999・8 ポスター発表（連名）「挫折体験の受容と有能感」日本教育心理学会第41回総会・甲南女子大学

54 1999・8 自主シンポジウム話題提供「学級集団指導論の展開」日本教育心理学会第41回総会・甲南女子大学

55　1999・9　口頭発表「教師のバーンアウト構造と教育観による差異」 日本心理学会第63回大会・中京大学
56　1999・9　自主シンポジウム指定討論「教師カウンセラーの視点から考える学校カウンセリング」 日本心理臨床学会第18回大会・文教大学.
57　2000・3　シンポジウムシンポジスト「ユーザーからみた学校臨床心理士をめぐって」第10回心の健康会議.
58　2000・3　ポスター発表「適応指導教室指導員の意識と成長に関する探索的研究」 日本発達心理学会第11回大会・東京女子大学. 2000
59　2000・8　シンポジウム話題提供「スクールカウンセラー事業の評価と課題―全国調査結果より―」学校臨床心理士全国研修会・名古屋国際会議場
60　2000・8　学校臨床心理士会千葉県支部主催研修会「現代の思春期の特徴」 千葉大学
61　2000・9　日本発達心理学会企画委員会「スクールカウンセラー実践と思春期の心―学校臨床の現場から」立教大学
62　2000・9　ポスター発表「メンタルフレンド活動と役割意識に関する探索的研究」 日本教育心理学会第42回総会・東京大学.
63　2000・9　学会準備委員会企画シンポジウム話題提供「学校心理学と臨床心理学の交流」 日本教育心理学会第42回総会・東京大学.
64　2000・9　自主シンポジウム指定討論「教師発達と学級経営」 日本教育心理学会第42回総会・東京大学
65　2000・11　ポスター発表「メンタルフレンドによる不登校への対応とその成果」 日本心理学会第64回大会・京都大学
66　2001・8　日本教育心理学会学校心理士千葉支部主催研修会 「現代の思春期の特徴」 千葉大学
67　2001・9　自主シンポジウム指定討論「学校コミュニティにおける正義と配慮の調和を目指して」 日本教育心理学会第43回総会・名古屋国際会議場.
68　2001・9　自主シンポジウム話題提供「学級における教師―生徒関係を質的にどう記述するか」日本教育心理学会第43回総会・名古屋国際会議場.
69　2001・9　自主シンポジウム話題提供「中学校臨床を考える―問題行動に焦点を当てて」 日本教育心理学会第43回総会・名古屋国際会議場.
70　2001・9　ポスター発表「保健室登校に関する養護教諭の意識」日本教育心理学会第43回総会・名古屋国際会議場.
71　2001・9　自主シンポジウム話題提供「21世紀の日本の臨床心理学をデザインする」 日本心理臨床学会第20回大会・日本大学
72　2001・9　事例研究座長「公立教育相談機関におけるADHDサスペクト児への支援」 日本心理臨床学会第20回大会・日本大学
73　2001・10　シンポジウム話題提供「教師のストレスと教師教育の課題―心理臨床の立場から見た学校現場の荒れと教師の疲れ―」 日本教師教育学会・東京学芸大学
74　2001・11　ポスター発表「教師のバーンアウトとその背景にある学校の荒れ」 日本心理学会第65回大会・筑波大学

75　2001・11　ポスター発表「中学生の登校忌避感情と休み時間イメージ，親友・仲良しグループとの関連」日本カウンセリング学会第34回大会・大阪教育大学

76　2001・11　日本臨床心理士会第4回全国大会　分科会講師「教育臨床―スクールカウンセリングを中心に」九州大学

77　2001・11　研修会講師 「教育臨床―スクールカウンセリングを中心に」 日本臨床心理士会第4回全国大会・九州大学

78　2001・12　研修会講師 「現代の思春期の特徴」 日本教育心理学会学校心理士千葉支部主催研修会

79　2002・9　事例研究座長「スクールカウンセラーによる不登校事例の検討」 日本心理臨床学会第21回大会・中京大学

80　2002・10　研究委員会企画シンポジウム「現代社会における学校臨床の現状と対応―最近の研究成果と実践にもとづき」 日本教育心理学会（熊本大学）

81　2002・9　ポスター発表「逸脱行動に対する意識と実態についての発達的変化―“人に迷惑さえかけなければ本人の自由”という意識に注目して―」 日本心理学会（広島大学）

82　2003・8　シンポジウム司会「個と集団のみたてとてだて」 学校臨床心理士全国研修会（神戸国際会議場）

83　2003・8　研究委員会企画シンポジウム企画・司会「私事化社会における生徒指導の今日的課題―いじめ・不登校実態調査を手がかりとして」 日本教育心理学会（大阪教育大学）

84　2003・8　指定討論「教育実践と心理臨床実践の連携―教師とスクールカウンセラーの協働を中心に」 日本教育心理学会（大阪教育大学）

85　2003・9　事例研究座長「スクールカウンセラーによる不登校事例の検討Ⅱ」 日本心理臨床学会第22回大会・京都大学

86　2003・9　シンポジウム話題提供「教師から見たスクールカウンセラー評価」 日本心理臨床学会第22回大会・京都大学

87　2004・9　事例研究座長「私立小学校における心理教育的援助サービス導入について」 日本心理臨床学会第23回大会（東京国際大学）

88　2004・9　準備委員会企画特別研究報告「不登校児道・生徒への支援―教育支援センター（適応指導教室）を中心に」 日本カウンセリング学会（明治学院大学）

89　2004・10　自主シンポジウム指定討論「教育実践と心理臨床実践の連携（2)―不登校対応を中心としたチーム支援の重要性」 日本教育心理学会第46回大会（富山大学）

90　2004・10　自主シンポジウム話題提供「教師のエンパワーメントと社会的資源の活用」 日本教育心理学会第46回大会（富山大学）

91　2004・10　自主シンポジウム指定討論「地域ネットワークによる児童生徒支援の可能性と課題」 日本教育心理学会第46回大会（富山大学）

92　2004・10　ワークショップ「リーガル・カウンセリングの試み：よりよい法律相談のための法と心理学からのアプローチ」 法と心理学会第5回大会（日本大学）

93　2005・8　自主シンポジウム話題提供「不登校児童生徒への訪問カウンセリング」 日本カウンセリング学会第38回大会（コンセーレ・栃木県教育会館）

94　2005・9　事例発表座長　日本心理臨床学会第24回大会（国立京都国際会館）
95　2005・9　シンポジウム企画「「うつ」をめぐる心理学と精神医学の架け橋」 日本心理学会第69回大会（慶應義塾大学）
96　2005・9　ワークショップ指定討論「語り出される子ども「問題」へのナラティブ・アプローチ」 日本心理学会第69回大会（慶應義塾大学）
97　2005・9　ポスター発表「不登校の子どもを抱える保護者に対する全国調査」 日本心理学会第69回大会（慶應義塾大学）
98　2007・9　学会準備委員会企画シンポジウム「不登校は本当に減ったのか？」 日本教育心理学会第49回大会（文教大学）
99　2008・9　事例発表司会 「不登校“よい子”の発達現象を考える」 日本心理臨床学会第27回大会（つくば国際会議場）
100　2008・10　自主シンポジウム話題提供 「現代若者考：実践と実証のコラボレーション」 日本教育心理学会第50回総会（東京学芸大学）
101　2009・9　ポスター発表（小俣・伊藤・相馬の連名）「小中学校不登校経験者の現状と課題」 日本心理臨床学会第28回大会（東京国際会議場）
102　2010・7　ポスター発表（伊藤・竹ノ上・中北の連名）「不育症女性たちの流産をめぐる悲嘆と，その関連要因」 日本ヒューマン・ケア心理学会第12回大会（日本赤十字看護大学）
103　2010・8　口頭発表（連名・筆頭）「学校現場で求められる自尊感情を測る尺度作成の試み」 日本教育心理学会第51回総会（早稲田大学）
104　2010・8　学会研究委員会企画シンポジウム 「子どもや青年に寄り添うことと指導すること―実践と理論からの学び」 日本教育心理学会第51回総会（早稲田大学）
105　2010・8　自主シンポジウム 「女性教師のストレス，研究と改善の課題」 日本教育心理学会第51回総会（早稲田大学）
106　2010・9　ポスター発表 「不育症女性たちの流産をめぐる悲嘆の変化」 日本心理臨床学会第29回大会（東北大学）
107　2010・9　事例研究・司会 「一人職場としてのスクールカウンセラー活動の工夫」 日本心理臨床学会第29回大会（東北大学）
108　2010・9　自主シンポジウム・指定討論 「不登校児童生徒への支援―教育支援センターでの臨床心理士の役割」 日本心理臨床学会第29回大会（東北大学）
109　2010・10　ポスター発表（植松晃子氏との連名：第二）「チャムシップの構造についての探索的検討―発達的変化と自尊感情との関係から」 日本心理学会第74回大会（大阪大学）
110　2011・7　ポスター発表（竹ノ上ケイ子氏との連名・筆頭）「不育症女性たちの悲嘆―流産群・出産群と2人目不育群の比較より」 日本ヒューマンケア心理学会第13回大会（大阪市立大学）
111　2011・9　ポスター発表（金子恵美子氏との連名・第二著者）「定時制高校の登校に関連する要因の検討」日本カウンセリング学会（上越教育大学）
112　2012・7　口頭発表（連名・筆頭）「流産経験者への支援に関わる実践現場から―その成果と課

題」日本ヒューマンケア心理学会第14回大会（筑波大学東京キャンパス）

113　2012・9　ポスター発表 「不登校経験者の「過去」「現在」「未来」」 日本心理学会第76回大会（専修大学）

114　2012・9　口頭発表 「流産経験者の悲嘆の構造―流産後の悲嘆に影響するのは流産回数，人間関係，それとも時間？―」 日本心理臨床学会第31回秋季大会（愛知学院大学）.

（その他の学会・学術講演会等）

1　2007・9　学会準備委員会企画シンポジウム「不登校は本当に減ったのか？」 日本教育心理学会第49回大会（文教大学）

2　2008・5　東海心理学会第57回大会　シンポジウム 「学校教育現場での子どもと親，教師への支援の実際」 話題提供（愛知教育大学） 2008/5/24

3　2008・6　東京臨床心理士会　第16回大会　テーマ別分科会「発達障害と臨床心理士―生涯に亘る支援を考える」 話題提供（東洋大学） 2008/6/1

4　2009・9　北海道臨床心理士会　講演「これからのスクールカウンセラーの活動，役割，あり方―地域援助をめざして―

5　2010・7　不育症友の会ハートビートくらぶ勉強会　講演「不育症をめぐる悲嘆に関する調査結果報告」慶應義塾大学　2010/7/11

6　2010・9　流産・死産グリーフケア研究会　講演「ウェブ上アンケート結果報告」 慶應義塾大学2010/9/26

7　2010・12　日本遺伝カウンセリング学会　講演「流産経験をめぐって―その悲嘆と支援」 日本医科大学2010/12/12

8　2011・5　大阪府臨床心理士会教育部企画研修会 「小学校のSC活動について考える」 ドーンセンター 2011/5/7

9　2011・5　学校相談学会愛知支部記念講演 「不登校の心もようと支援の実際」 愛知県東別院会館2011/5/15